

公益財団法人かめのり財団
平成 26(2014)年度 事業報告

平成 26(2014)年 4 月 1 日～平成 27(2015)年 3 月 31 日

平成 26 年度主要事業の実施状況と成果を報告する。

基本方針として、定款にうたわれる 3 つの柱

1. 高校生交換留学および大学院アジア留学生への奨学事業
2. 青少年の交流および言語教育支援を助成する国際交流事業
3. それらを推進するために、かめのり賞の顕彰、講演・シンポジウム等
その基盤支援事業

を実施することにより、日本とアジア・オセアニア諸国との相互理解・国際理解の促進を
踏ることができた。

○重点施策

1. 青少年留学支援事業

(1) 高校生交換留学支援

平成 26 年度のかめのり財団アジア・オセアニア高校生交換留学プログラムはアジアから
の受入のみとし、(公財) AFS 日本協会に委託し、以下のとおり実施した。

年間プログラムは、第 8 期生が日本の各地域で、学校通学、ホームステイを通じて異文
化体験をし、平成 27 年 2 月に帰国した。数名の生徒は適応が難しい点があったが、最終的
に受入生は、地域に溶け込み受入家庭の一員として有意義な体験をし、社会、文化を学ぶ
とともに、異文化理解および相互理解を深めることができた。

【高校生交換留学プログラム 実績】

	受 入	
	第 8 期 H25 年度(2013)	第 9 期 H26 年度(2014)
中国	1	1
香港	1	0
韓国	1	1
インドネシア	1	1
タイ	1	1
フィリピン	1	1
マレーシア	0	1
ネパール	1	0
インド	1	0
合計	8	6

(2) 大学院留学生支援

以下の奨学生 7 名に月額 20 万円を支給した。

平成 26(2014)年度 大学院留学アジア奨学生

Ms.Htet Htet Nu Htay(ミャンマー)		テツテツヌタイ	2012. 4-2015. 3	東京外国語大学大学院 総合国際学研究科国際社会専攻
姜 民護 (韓国)	Mr. Kang Min Ho	カンミンホ	2013. 4-2016. 3	同志社大学大学院 社会学研究科社会福祉学専攻
周 鑫 (中国)	Mr. Zhou Xin	シュウキン	2013. 4-2016. 3	一橋大学大学院 法学研究科法学・国際関係専攻
張 碩 (中国)	Mr. Zhang Shuo	チョウセキ	2013. 4-2015. 3	大阪大学大学院 言語文化研究科日本語・日本文化 専攻
胡 新祥 (中国)	Mr. Hu Xin Xiang	コシンショウ	2014. 4-2017. 3	立教大学大学院 文学研究科日本文学専攻
姜 哲敏 (韓国)	Mr. Kang Cheol Min	カンチョルミン	2014. 4-2017. 3	筑波大学大学院 システム情報工学研究科社会工学専攻
洪驥 (中国)	Mr. Hong Ji	コウキ	2014. 4-2017. 3	早稲田大学大学院 法学研究科公法学専攻

大学院生へのサポートの一環として、平成 26 年 9 月 23 日～25 日、徳島県鳴門市で研修会を実施した。各自の研究テーマの発表と意見交換、研究分野のミニ講義、上級生からの論文指導、現在抱えている課題等を共有することによって、奨学生の状況を把握し、学生同士の親睦を深めるよい機会になった。

また、平成 27 年度採用の「大学院留学アジア奨学生」の募集・選考を行った。指定校 20 校のうち 8 校から候補生の推薦があり、平成 27 年 2 月 27 日に選考試験（面接）を実施し、奨学生選考委員会により以下の 3 名を奨学生として決定した。

周 静 (中国)	Ms. Zhou Jing	シュウセイ	2015. 3-2018. 3	京都大学大学院 教育学研究科教育科学専攻
蔡 睿 (中国)	Ms. Cai Rui	サイエイ	2015. 4-2017. 3	名古屋大学大学院 法学研究科総合法政専攻
金 ボラ (韓国)	Ms. Kim Bora	キムボラ	2015. 4-2017. 3	東京大学大学院 経済学研究科現代経済専攻

2. 青少年交流および言語教育支援事業

(1) 財団主導事業としての助成

助成審査委員会の審査を経て、以下、助成を行った。

① (公財) YFU 日本国際交流財団

第7期 高校生短期交流プログラム：630万円

派遣は韓国のみ5名で平成26年8月に行われ、中国は諸事情により見送ることとなった。受入は平成27年1～2月に行われ中国、韓国各5名ずつ、1か月間、学校通学やホームステイを通じて、異文化体験をした。それぞれ意識の高い生徒の参加により、各方面から評価も高くそれぞれの国との相互理解をより深めることができた。短期プログラムは、期間は短いながら生徒に与えるインパクトは大きく、好評で今後も継続して実施したい。

② (一社) 国際フレンドシップ協会

第6回中学生交流プログラム：868万円

インドネシアとの相互交流のプログラムで、派遣は平成26年10月5日～10月12日、全国から選考された7名の中学生がインドネシアを訪問し、在インドネシア日本大使館への表敬訪問、アルマージャン・インドネシア総合中学、デンパサールのSMPセントヨセフ学校で、日本紹介やホームステイの体験を通じて交流した。また、受入はインドネシアの7名の中学生が11月9日～17日、東京、京都を訪問し、駐日インドネシア大使館への表敬訪問、企業訪問、ホームステイや文化体験をし、お茶の水大学付属中学、荒川区立原中学で日本の中学生と交流した。日本とインドネシアの人々との友好を深めたほか、それぞれの文化、社会を学び、より日本への理解を深め、大変好評であった

③ (学) インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢

ISAK サマースクール 2014：200万円

平成26年7月19日～30日の間、アジアを中心とした80名の中学生と日本の中学生を対象に軽井沢でアウトドア活動を含めたリーダーシッププログラムを行った。「多様性に関する寛容力」、「問題設定能力」、「困難に挑む力」を兼ね備えたチェンジメーカーの育成と国際交流を通じて異文化理解を目標とし、座学だけではなく、チームでの協働作業をしながら、多様な背景を持つ中学生たちが、言語、宗教、経済的な差異を超え、お互いの考え、意見を尊重し、皆で力を合わせて助け合った。参加者からは真のリーダーとは何かを学ぶことができた等の感想を含め、大変評価が高く、好評であった。

④ (公社) 日本ユネスコ協会連盟

高校生カンボジアスタディツアー：300万円

平成26年8月13日～22日の間、全国から選考された8名の高校生が、カンボジアのプノンペン、コンポントム、シェムリアップの3都市を訪問した。プノンペンでは在カンボジア日本大使館、UNESCOプノンペン事務所を訪問し、カンボジアにおける遺跡保存、識字教育等の現状を、そしてサンボープレイクック遺跡では現地高校生のガイドとともに、7世紀の遺跡や周辺の村の生活様式を学んだ。シェムリアップでは日本ユネスコ協会連盟が協力しているバイヨン寺院での石像修復プロジェクトの一部に参加し、また当該団体が実施

している貧困村における教育、生活向上支援の現場を訪問し、そこで学ぶ子どもたちや技術指導を受け、ものづくりに励む交流を通じて、考えを深めた。帰国後、参加者たちがカンボジアの現状を多くの日本人に伝えるべく新聞投稿や文化祭での発表等の具体的活動を行った。参加者はカンボジアで様々な刺激と気づきを受け、大変意義深いプログラムであった。

(2) 国際交流事業の一般公募助成

一般公募で、日本とアジア・オセアニアの国際相互理解の増進に寄与する大学生交流事業はじめとする国際交流活動、異文化共生活動等を含めた以下の11のプロジェクトに計334万円の助成をした。

- ① (特) 日本雲南聯誼協会による「第1回日本雲南交流スタディツアー」へ40万円
- ② (一社) カンボジア地雷撤去キャンペーンによる「カンボジア地雷・不発弾被害者と日本の学生による国際平和交流事業」へ25万円
- ③ 北東アジア学生ラウンドテーブルによる「北東アジア学生ラウンドテーブル2014」へ30万円
- ④ (公社) ガールスカウト日本連盟による「ミャンマー・フレンドシップ・プロジェクト」へ50万円
- ⑤ 「話してみよう韓国語」東京・中高生大会2015実行委員会による「話してみよう韓国語東京中高年大会」へ30万円
- ⑥ (特) 地球対話ラボによる「日本とインドネシアの学生国際協働による被災地こども対話交流」へ25万円
- ⑦ JuJu〜カンボジア・村びと共生プロジェクト〜による「カンボジア・村人びと共生プロジェクト」へ9万円
- ⑧ (特) 地球市民の会による「スリランカと佐賀の若者育成プログラム〜佐賀で学び、アジアの友好の懸け橋を築こう〜」へ30万円
- ⑨ 平間わんぱく少年団による「韓国さんねん峠ミュージカル公演と在日韓国朝鮮児童との交流」へ50万円
- ⑩ (特) ひまわりの会による「アジア各地から中途入学をした子どもたちの日本語学習サポート事業」へ30万円
- ⑪ 学生団体 HaLuz による「日本、東ティモール学生交流事業」へ15万円

(4) 海外日本語教育サポート事業

平成26年度は以下の事業を実施および助成した。

- ① (独法) 国際交流基金との共催事業「にほんご人フォーラム2014」実施
学習者と教師の研修プログラム「にほんご人フォーラム2014」を平成26年8月26日～9月4日の間、国際交流基金日本語国際センターで実施した。本事業はこれからの社会で求められる能力の育成を組み込んだ外国語教育のモデルを創造して実践し、中等教育における「にほんご人」ネットワークを形成し、若い世代の相互理解の促進とグロー

バル人材の育成を目指して、中長期的な見通しで実施する。タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、日本の6か国を対象に、高校生24名と中等教育機関の教師12名が、高校生セッション、教師セッションに分かれて活動する一方、教師は高校生セッションの観察を踏まえ、言語、文化、これからの社会で求められる能力を取り入れた授業を考える課題に取り組んだ。

高校生セッションは「便利」をテーマにグループで協働作業をし、最後に成果発表を行ったほか、関東国際高校の協力によりホームステイ、東京見学、日本文化体験等もおこない、6か国の高校生が交流し、友好と相互理解を深めた。また、東南アジア各国で行われる選考、研修、およびフォローアップ事業を含め本事業とした。

② 国際交流基金ベトナム日本文化交流センター「ベトナム中学生日本語キャンプ事業」への助成

ベトナムの中学生を対象に、教室活動では得られない日本語学習の楽しさを体感するとともに、既習語彙・文型の積極的な活用を促すことを目的に平成26年8月5日～7日の3日間、ホーチミン市近郊のサンディエン滝キャンプ場でベトナム4都市(ハノイ、ホーチミン、フエ、ダナン)の中学生42名と日本語教師が参加し、キャンプを開催した。日本語でのオリエンテーリング、日本の伝統的な遊びの体験、日本語ウルトラクイズ、キャンプファイヤー等の活動を通じて、他都市間の中学生、教師が交流し友情を深め、教室外で実際に日本語を使うことで、日本語学習の成果や楽しさを実感し、今後の日本語学習の意欲を高めた。参加者からは非常に高い満足度の結果が出て、十分な成果を収めることができた。

3. 国際交流および人材育成の講演・セミナー事業

(1) 異文化理解講演会

平成26年度の王敏理事による講演会は、以下の通り実施した。

①茨城県日中友好協会「新たな日中友好促進の展開～日中首脳会議を契機として～」

(平成27年1月26日実施)

②新潟県ハルピン友好市民の会「異文化交流の知恵～驚きから理解へ～」

(平成27年2月21日実施)

③かわさき国際交流民間団体協議会「新しい異文化理解活動の形と役割」

(「平成26年度地球市民講座わくわくする国際交流を考える」)(平成27年3月21日)

王敏理事著書の寄贈もあわせて行った。

また、新たな試みとして早稲田大学でのグローバル人材育成推進事業の特別イベント

「The 本音トーク” 留学って必要なの？～留学経験者が語る「留学の魅力」とは～」(平成26年5月9日実施)で當作靖彦教授(カリフォルニア大学サンディエゴ校)に講演を依頼し、実施した。

(2) かめのりフォーラム

「かめのりフォーラム2015」を平成27年1月9日に開催した。第1部はかめのり奨学生の

体験発表、そして「あなたの仕事は「誰を」幸せにするか？」をテーマに北原茂実氏（医療法人社団 KNI 理事長）からゲストスピーチがあり、医療の視点からグローバル人材に求められるものは何かについての講演は、聴衆から大変好評であった。

4. 国際交流および人材育成に関する顕彰事業

交換留学、日本語教育、そして文化・スポーツの交流に草の根で貢献している団体・個人の活動を顕彰する「かめのり賞」の受賞団体を選考し、以下の 9 団体に第 8 回かめのり賞を表彰し、正賞の記念の楯と副賞として 50 万円の活動奨励金を贈呈した。

【第 8 回かめのり賞受賞団体】（敬称略）

（特）多文化共生教育ネットワークかながわ

小さな美術スクール

（特）地球の木

（特）新潟国際ボランティアセンター

（特）日本国際ボランティアセンター

（公財）日本キリスト教婦人矯風会「女性の家 HELP」

（特）ニランジャンナセワサンガ

（特）みんなのおうち

NGO ユイマール

5. その他

(1) 広報活動の強化

継続的にホームページの充実を図るとともに、当財団の活動を関係団体はじめ広く周知するために、事業活動を紹介するニュースレター「かめのりコミュニティ」を 7 月、12 月、3 月と年 3 回発行した。

(2) IT の整備

いままで奨学金を支給していた過去の奨学生に関して現状を把握して、かめのりコミュニティの特集号で紹介する以外に、継続的にかめのり財団との関係をつなげるべく、OB、OG のネットワークづくりのため FACEBOOK を立ち上げ、引き続き IT 環境の整備を行った。

(3) 中長期計画の策定

平成 28 年 4 月にかめのり財団 10 周年を迎えるにあたり、次の 10 年間の事業方針及び中長期計画の策定を開始した。平成 26 年度は事業の方向性を検討し、平成 27 年度はそれをもとに具体的な事業計画を策定する予定である。

以上